



2013年度 第2四半期 連結業績の概要

コーポレート・オフィサー
チーフ フィナンシャル オフィサー
フランソワ ロジエ

2013年 10月 31日

武田薬品工業株式会社

目次



- Key Highlights
- 売上高 [2013年度 第2四半期(7-9月)]
- 損益計算書 [2013年度 第2四半期(7-9月)]
- 貸借対照表およびキャッシュフロー計算書
- 2013年度 通期見通し
- Appendix
 - 業績の概要 [2013年度 上期(4-9月)]
 - IFRS
 - 補足情報



- 第2四半期(7-9月)の前年同期比売上高伸長率は+5.1%となり、中期成長戦略通りのトレンド(除く、為替影響及び米国アクトス売上)
- 費用削減の取組効果が既に第2四半期から発現
- 新製品の立ち上げは想定以上に順調(欧州のアドセトリスなど)
- 対前年の為替影響は売上高に対してはポジティブであるが、営業利益に対しては買収関係償却費(ドル・ユーロ建て)の影響からネガティブ(特に日本基準において)
- 健全なバランスシートと、低い純有利子負債水準を維持
- 上期実績のポジティブなトレンドを踏まえ、公表年間予想の確実な達成を目指す



売上高 [2013年度 第2四半期(7-9月)]

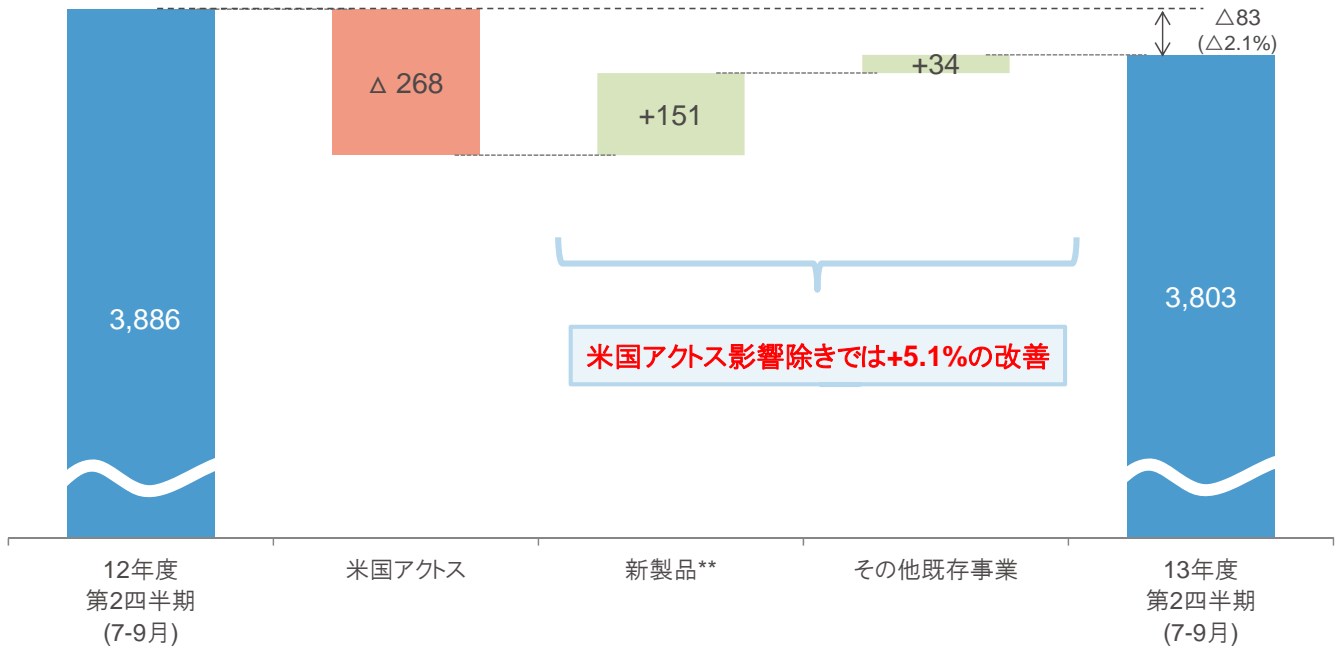
売上高 [2013年度 第2四半期(7-9月)]



- 為替影響および米国アクトス減収影響を除いた売上高は+5.1%と堅調

Like-for-like*

(億円)



* Like-for-like: 為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

** 新製品とは、発売後5年以内の製品、すなわち09年以降に発売した製品(既存品との合剤・剤型変更を除き、買収した会社の製品を含む)を指します。

売上高 [2013年度 第2四半期(7-9月)] : 上位10品目



- 堅調な既存品と新製品の伸長

億円	第2四半期 (7-9月)			LFL*
	12年度	13年度	増減	
カンデサルタン	417	400	△ 4.2%	△ 7.6%
リュープロレリン	277	315	+ 14.0%	+ 6.4%
ランソプラゾール	286	303	+ 5.7%	△ 2.4%
パントプラゾール	166	250	+ 50.4%	+ 22.3%
ベルケイド	181	236	+ 30.4%	+ 5.2%
デクスラント	81	125	+ 54.5%	+ 23.6%
コルクリス	94	121	+ 28.5%	+ 3.6%
エンブレル	111	115	+ 3.7%	+ 3.7%
ネシーナ	82	111	+ 35.2%	+ 33.9%
アクトス	363	94	△ 73.9%	△ 76.9%
その他	1,829	2,111	+ 15.4%	+ 6.3%
売上高合計	3,886	4,180	+ 7.6%	△ 2.1%
米国アクトス除く売上高合計	3,605	4,164	+ 15.5%	+ 5.1%

* LFL: Like-for-like

為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

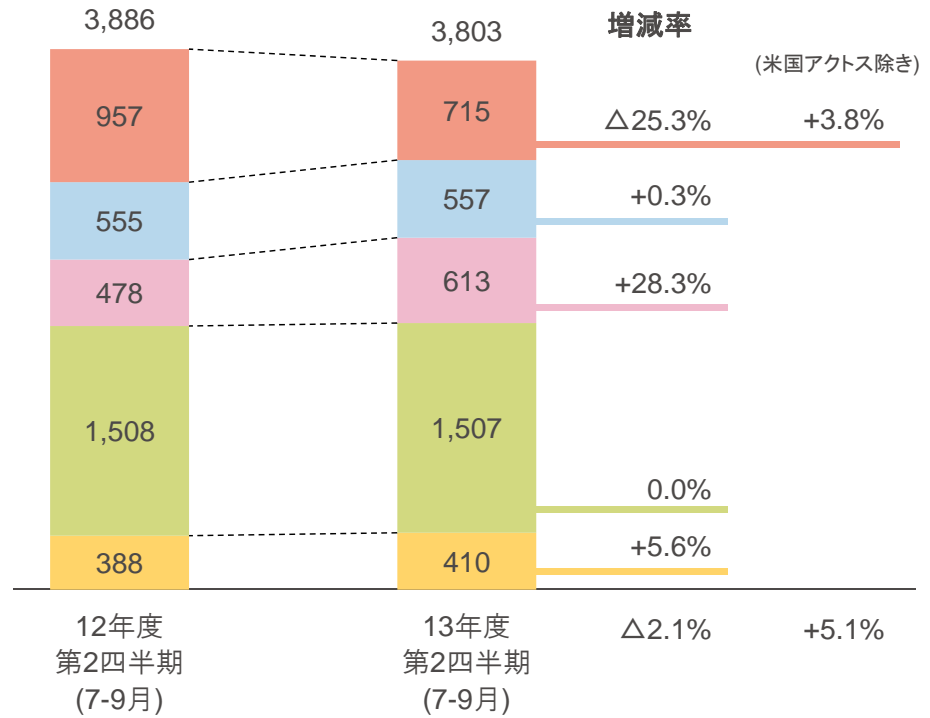
売上高 [2013年度 第2四半期(7-9月)] : 地域別

- 米国アクトス減収影響除きで、全ての地域で概ね順調な推移



Like-for-like*

(億円)



* Like-for-like: 為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

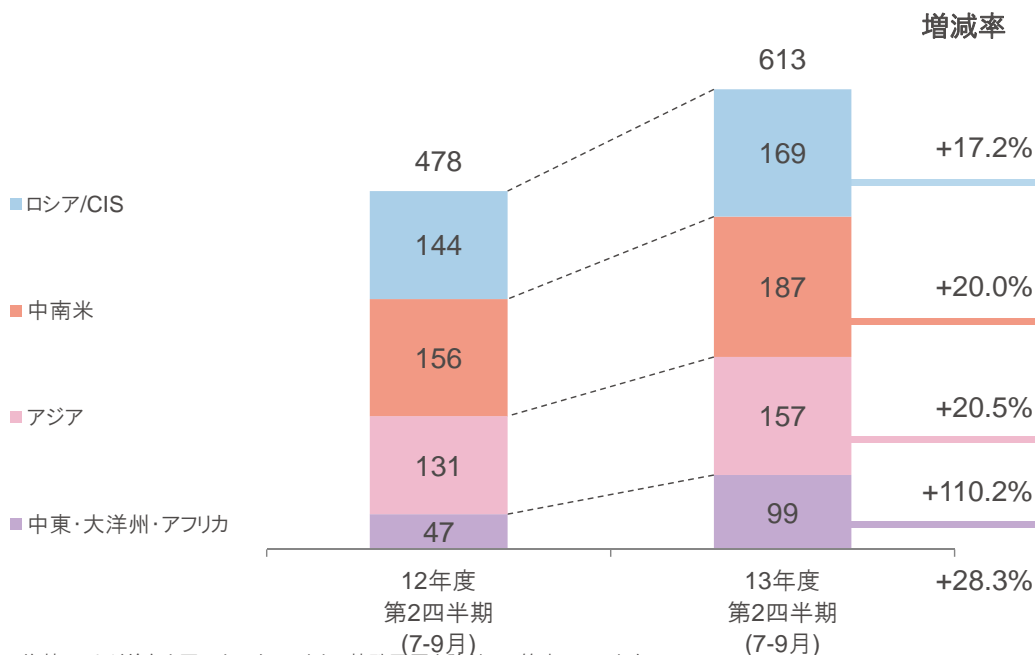
売上高 [2013年度 第2四半期(7-9月)] : 新興国地域別

- 新興国市場における力強い伸長傾向



Like-for-like*

(億円)



* Like-for-like: 為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。



損益計算書 [2013年度 第2四半期(7-9月)]

損益計算書 [2013年度 第2四半期(7-9月)] 1/2 - LFLでの営業利益率+1.5%の改善



億円	日本基準			増減	LFL*	LFL* 米国アクトス除き
	第2四半期 (7-9月)		増減			
	12年度	13年度				
売上高	3,886	4,180	+ 7.6%	Δ 2.1%	+ 5.1%	
売上総利益	2,759	3,018	+ 9.4%	Δ 2.1%	+ 8.4%	
売上高比率	71.0%	72.2%	+1.2 pts	+0.0 pts	+2.2 pts	
一般管理販売費	1,541	1,719	+ 11.6%	Δ 0.2%		
売上高比率	39.6%	41.1%	+1.5 pts	+0.6 pts		
研究開発費	758	776	+ 2.4%	Δ 12.7%		
売上高比率	19.5%	18.6%	Δ0.9 pts	Δ2.1 pts		
営業利益	460	523	+ 13.6%	+ 4.7%		
売上高比率	11.8%	12.5%	+0.7 pts	+1.5 pts		

- 売上総利益率の改善
- コスト削減の取組効果
- 為替影響と買収関係償却費による一般管理販売費の絶対額の増加

* LFL: Like-for-like

為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

損益計算書 [2013年度 第2四半期(7-9月)] 2/2

- EPSの増加



億円	日本基準			LFL*
	第2四半期(7-9月)		増減	
	12年度	13年度		
営業利益	460	523	+ 13.6%	+ 4.7%
売上高比率	11.8%	12.5%	+0.7 pts	+1.5 pts
経常利益	469	443	△ 5.6%	△ 2.8%
特別損益	77	139	+ 79.4%	-
純利益	322	356	+ 10.6%**	+ 3.5%
EBITDA(特別損益除き)	990	1,026	+ 3.6%	△ 1.6%
売上高比率	25.5%	24.5%	△0.9 pts	+0.1 pts
EPS	41円	45円	+ 4円	+ 3円

* LFL: Like-for-like

為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

** 前年同期においては、プレバインド取引に関する還付税金および還付加算金の純利益影響528億円が含まれています。詳細はAppendixのP.28をご参照ください。

経費の状況 [2013年度 第2四半期(7-9月)]

- 費用削減取り組み効果の発現



Like-for-like*

億円	12年度	13年度		12年度および13年度の 四半期平均増減
	四半期平均	第1四半期	第2四半期	
一般管理販売費	1,314	1,142	1,196	△ 11%
研究開発費	786	673	650	△ 16%
合計	2,100	1,815	1,846	△ 13%

- 特に研究開発費について、上期は発生タイミングの遅れによる費用減少が寄与しているが、下期においては費用増加を見込んでいる

* Like-for-like: 為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。(詳細はAppendix P.35をご参照ください。)

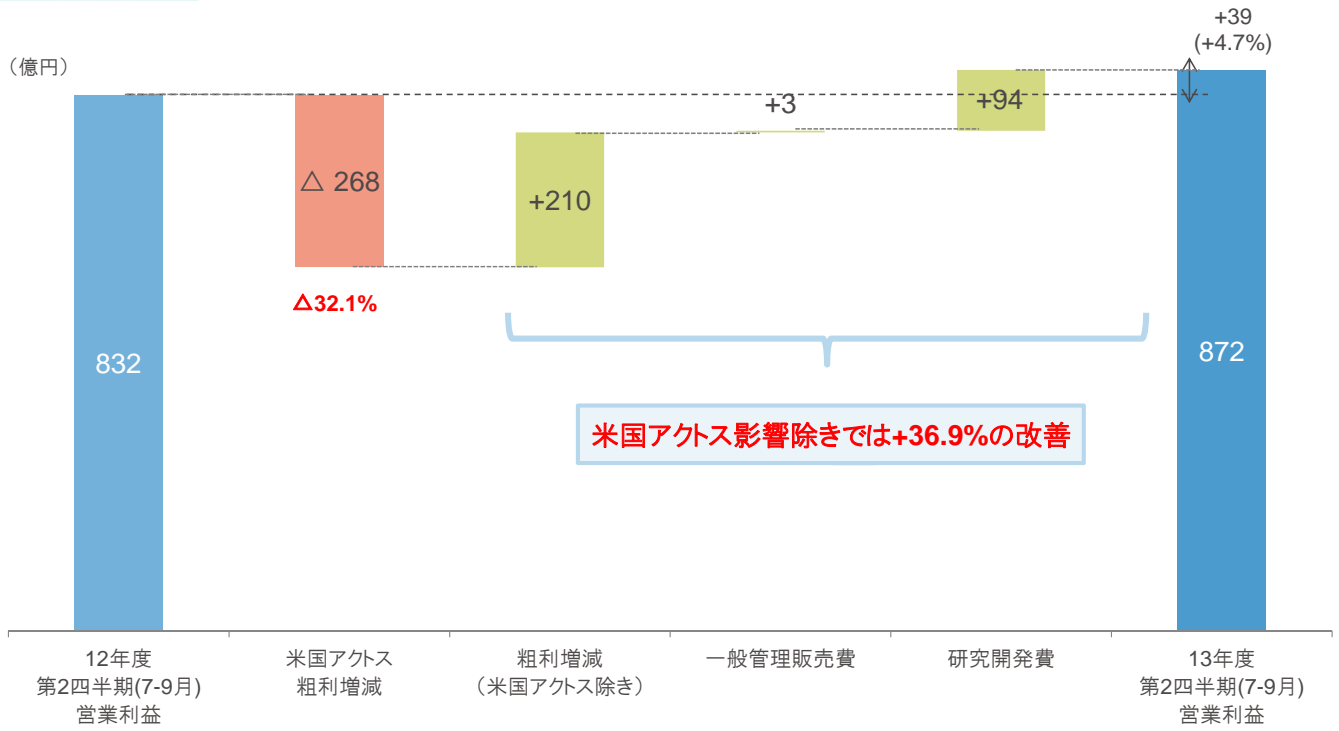
営業利益 [2013年度 第2四半期(7-9月)]



- 力強い営業利益の改善傾向(発生タイミングによる費用減少要因を含む)

Like-for-like*

一般管理販売費と研究開発費の削減効果が売上減少影響をカバー



* Like-for-like: 為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。(詳細はAppendix P.35をご参照ください。)



貸借対照表およびキャッシュフロー計算書

貸借対照表

- 健全なバランスシート



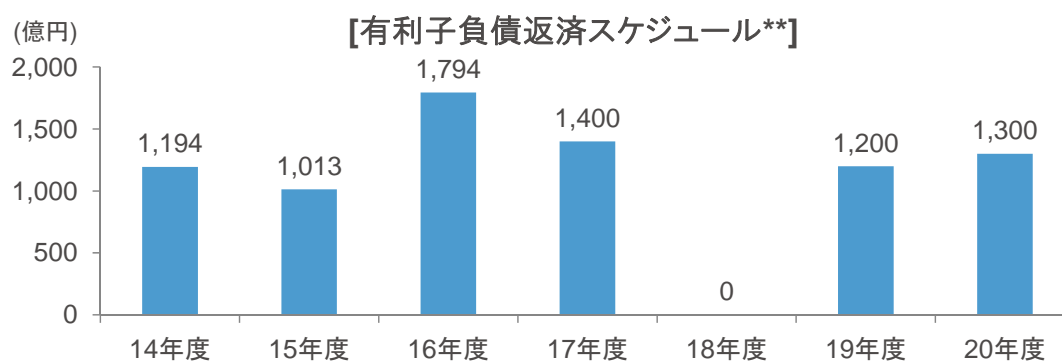
億円	13年3月末	13年9月末	増減
流動資産	14,551	17,129	+ 2,579
現金及び現金同等物	5,456	7,177	+1,721
固定資産	25,005	25,403	+ 397
のれん除く無形固定資産	10,144	10,550	+406
のれん	6,754	7,075	+321
総資産	39,556	42,532	+ 2,976
流動負債	6,136	5,470	△ 666
固定負債	11,186	13,591	+ 2,405
借入債務	5,402	7,901	+2,499
総負債	17,322	19,060	+ 1,738
純資産	22,234	23,472	+ 1,238
自己資本比率	54.6%	53.6%	△ 0.9 pts

貸借対照表

- 低い純有利子負債



億円	13年3月末	13年9月末	12年9月末
総有利子負債	5,421	7,916	5,421
現金及び現金同等物	5,456	7,177	4,094
純有利子負債	△ 35	739	1,327
純有利子負債 / EBITDA比率*	△ 0.0	0.2	0.3
純有利子負債 / 自己資本比率	△ 0.2%	3.2%	6.9%



* 純有利子負債 / EBITDA比率: EBITDAは上期実績を年換算して計算

** 返済スケジュール: 短期借入金と小額の長期借入金は除く



億円	上期 (4-9月)	
	12年度	13年度
EBITDA	2,134	2,115
運転資本増減	△ 92	△ 507 **
有形及び無形固定資産の取得支出	△ 525	△ 343
法人税等の支払額 *	△ 313	△ 212
営業 フリーキャッシュフロー	1,204	1,053

*以下の事項は一時的なものであることから法人税等の支払額には含めておりません。

i) 12年度において受け取った456億円(ブランド移転価格税制に係る還付税金)

ii) 13年度において支払った899億円(アクトスの移転価格に係る事前確認が合意に達したことにより、12年度に米国で還付を受けた税金の日本における納付)

** ネット運転資本の減少は季節的な要因および為替影響によるものです。



2013年度 通期見通し



下期は、新製品の市場浸透と強固なパイプライン構築に向けた販売費用と研究開発費が増加

7月公表の前回見通しから
変更なし

億円	13年度			
	実績	今回見通し		
	上期	下期	年間	
売上高	8,283	8,517	16,800	
営業利益	1,000	400	1,400	
経常利益	967	283	1,250	
純利益	647	303	950	
EBITDA(特別損益除き)	2,115	1,435	3,550	
EPS	82円	38円	120円	
為替レート	USD	98円	100円	99円
	EUR	128円	130円	129円

見通しは、現状の為替レートと株価5,000円を前提に作成。
(為替、株価の変動によりLong-term incentive program (LTIP)の費用が増減する可能性あり)



APPENDIX



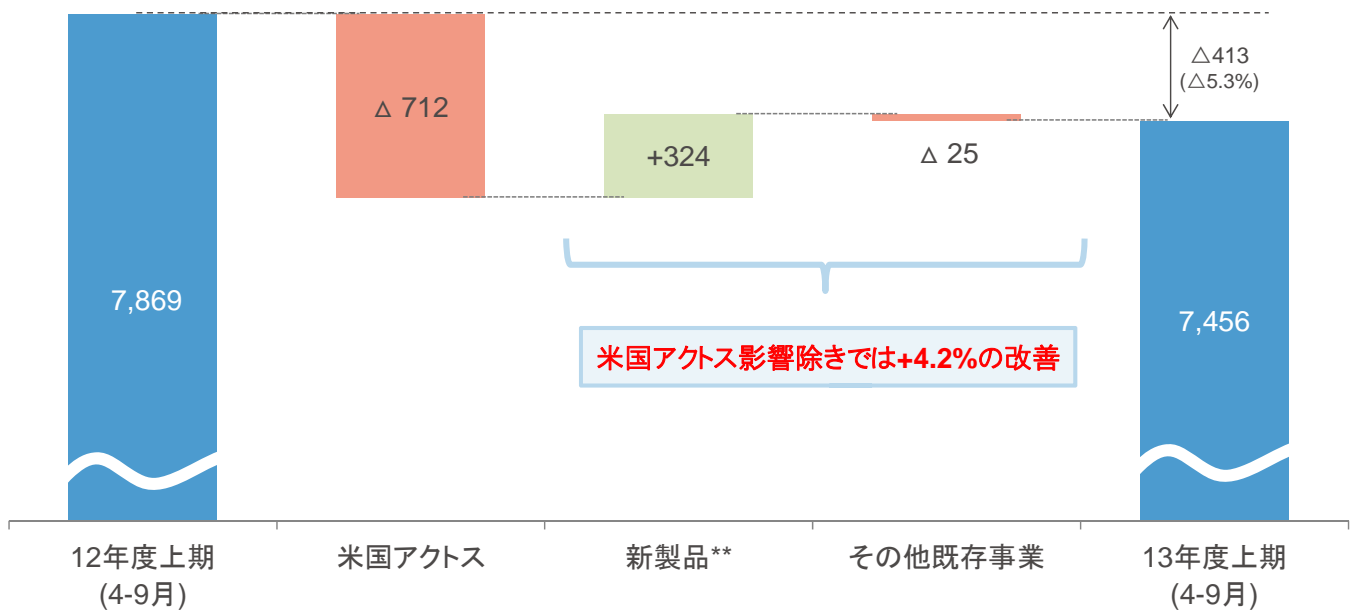
業績の概要 [2013年度 上期(4-9月)]

売上高[2013年度 上期(4-9月)]



Like-for-like*

(億円)



* Like-for-like: 為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

** 新製品とは、発売後5年以内の製品、すなわち09年以降に発売した製品(既存品との合剤・剤型変更を除き、買収した会社の製品を含む)を指します。

売上高[2013年度 上期(4-9月)] : 上位10品目



億円	上期(4-9月)			LFL*
	12年度	13年度	増減	
カンデサルタン	892	823	△ 7.7%	△ 11.2%
リユープロレリン	574	641	+ 11.8%	+ 5.2%
ランソプラゾール	559	599	+ 7.2%	△ 0.8%
パントプラゾール	368	479	+ 30.2%	+ 8.7%
ベルケイド	357	474	+ 32.6%	+ 7.7%
コルクリス	124	257	+ 108.0%	+ 69.0%
デクスラント	151	236	+ 56.1%	+ 27.0%
エンブレル	218	225	+ 2.8%	+ 2.8%
アクトス	920	200	△ 78.3%	△ 80.7%
ネシーナ	153	184	+ 20.1%	+ 19.4%
その他	3,553	4,165	+ 17.2%	+ 6.5%
売上高合計	7,869	8,283	+ 5.3%	△ 4.6%
特殊要因および米国アクトス除く売上高合計	7,120	8,189	+ 15.0%	+ 4.2%

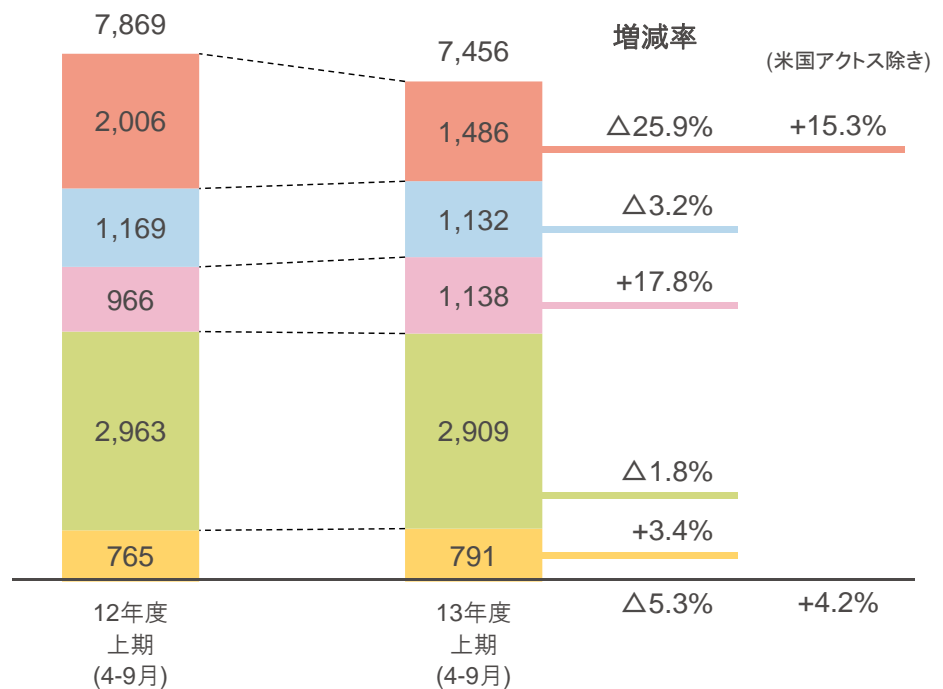
* LFL: Like-for-like
 為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

売上高[2013年度 上期(4-9月)] : 地域別



Like-for-like*

(億円)



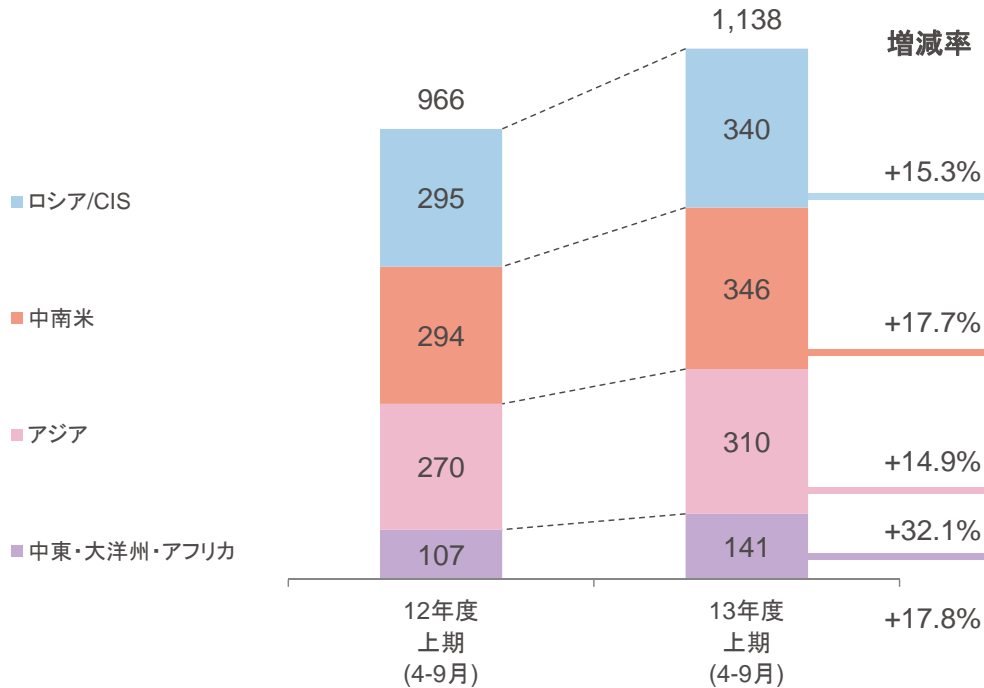
* Like-for-like: 為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

売上高[2013年度 上期(4-9月)] : 新興国地域別



Like-for-like*

(億円)



* Like-for-like: 為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

損益計算書 [2013年度 上期(4-9月)] 1/2



億円	日本基準		増減	LFL*	LFL* 米国アクトス除き
	12年度	13年度			
売上高	7,869	8,283	+ 5.3%	Δ 5.3%	+ 4.2%
売上総利益	5,709	5,970	+ 4.6%	Δ 7.5%	+ 5.6%
売上高比率	72.5%	72.1%	Δ0.5 pts	Δ1.7 pts	+1.0 pts
一般管理販売費	3,076	3,419	+ 11.1%	Δ 2.9%	
売上高比率	39.1%	41.3%	+2.2 pts	+0.8 pts	
研究開発費	1,547	1,552	+ 0.3%	Δ 13.0%	
売上高比率	19.7%	18.7%	Δ0.9 pts	Δ1.6 pts	
営業利益	1,086	1,000	Δ 7.9%	Δ 9.0%	
売上高比率	13.8%	12.1%	Δ1.7 pts	Δ0.9 pts	

* LFL: Like-for-like
為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。



億円	日本基準			LFL*
	上期(4-9月)		増減	
	12年度	13年度		
営業利益	1,086	1,000	△ 7.9%	△ 9.0%
売上高比率	13.8%	12.1%	△ 1.7 pts	△ 0.9 pts
経常利益	1,131	967	△ 14.5%	△ 10.2%
特別損益	172	116	△ 32.9%	-
純利益	1,198	647	△ 46.0%	△ 2.5%
EBITDA(特別損益除き)	2,134	2,115	△ 0.9%	△ 8.3%
売上高比率	27.1%	25.5%	△ 1.6 pts	△ 0.9 pts
EPS	152円	82円	△ 70円	△ 4円
為替レート	USD	80円	98円	+ 18円
	EUR	101円	128円	+ 27円

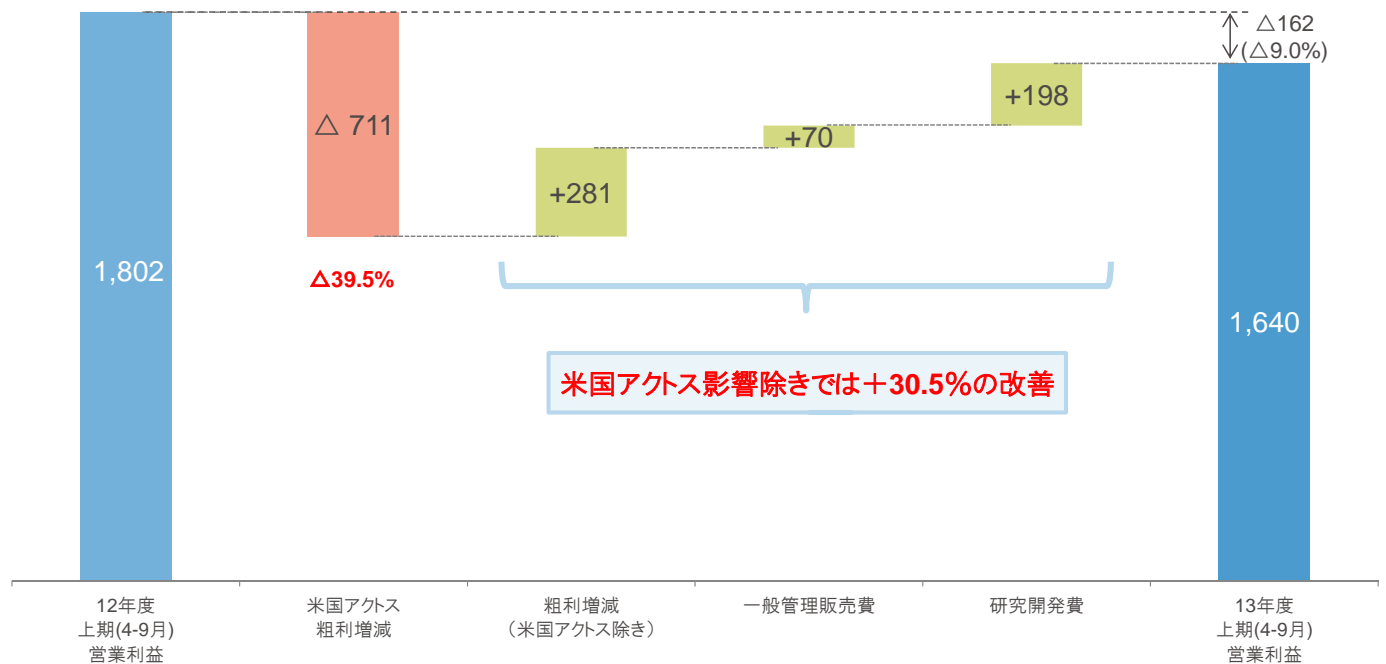
* LFL: Like-for-like
為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

営業利益 [2013年度 上期(4-9月)]



Like-for-like*

(億円)

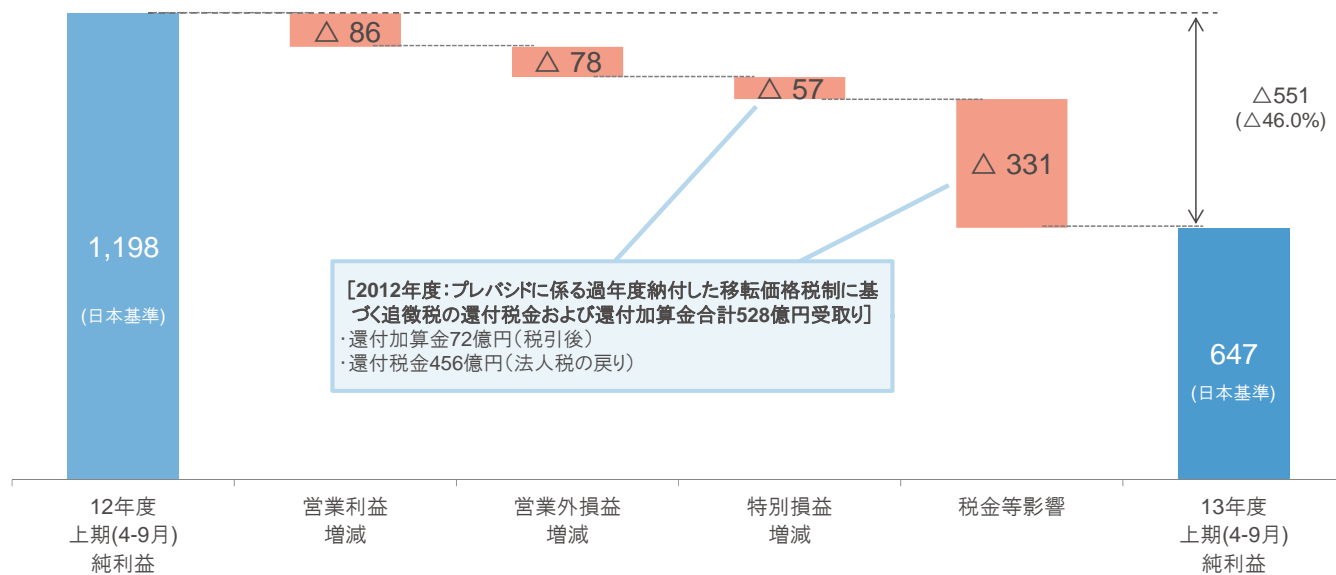


* Like-for-like: 為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。(詳細はAppendix P.36をご参照ください。)

純利益 [2013年度 上期(4-9月)]



(億円)



EBITDAの内訳 [2013年度 上期(4-9月)]



億円	上期 (4-9月)	
	12年度	13年度
経常利益	1,131	967
+ 無形固定資産償却費(企業買収に起因するもの)	508	537
+ のれん償却費(企業買収に起因するもの)	161	213
+ その他償却費(上記以外)	296	331
+ 支払利息	15	19
+ その他	23	49
EBITDA(特別損益除き)	2,134	2,115

医療用医薬品主要製品の売上増減 [2013年度 上期(4-9月)]



億円	11年度実績	12年度実績	上期(4-9月)				
			12年度	13年度	増減	LFL*	
カンデサルタン	2,163	1,696	892	823	△ 7.7%	△ 11.2%	
リュープロレリン	1,207	1,165	574	641	+ 11.8%	+ 5.2%	
ランソプラゾール	1,221	1,102	559	599	+ 7.2%	△ 0.8%	
ベルケイド	581	729	357	474	+ 32.6%	+ 7.7%	
コルクリス **	368	407	193	257	+ 33.5%	+ 8.4%	
デクスラント	242	327	151	236	+ 56.1%	+ 27.0%	
エンブレル	414	432	218	225	+ 2.8%	+ 2.8%	
ピオグリタゾン	2,962	1,229	920	200	△ 78.3%	△ 80.7%	
ネシーナ	155	378	153	184	+ 20.1%	+ 19.4%	
ユーロリック	129	177	81	125	+ 54.1%	+ 25.3%	
アミティーザ	187	223	107	120	+ 12.9%	△ 8.2%	
ベクティピックス	172	188	96	96	△ 0.4%	△ 0.4%	
アジルバ	-	34	19	80	+ 312.4%	+ 312.4%	
パントプラゾール ***	826	780	368	479	+ 30.2%	+ 8.7%	
アクトベジン ***	186	196	83	125	+ 50.5%	+ 22.4%	
カルシウム ***	157	154	69	88	+ 26.9%	+ 3.4%	
タコシール ***	138	132	64	80	+ 24.7%	+ 6.6%	
ダクサス ***	24	30	14	19	+ 35.0%	+ 6.7%	
参考: ナイコメッド社製品 計(概算) *** (百万ユーロ)	2,984	3,126	1,491	1,571	+ 5.3%		
為替レート	USD	79円	82円	80円	98円	+ 18円	
	EUR	109円	106円	101円	128円	+ 27円	

* LFL: Like-for-like

為替レートが前年と同一とみなし、また、特殊要因を除外して算定しています。

** 12年6月に買収したURLファーマ社の製品であり、12年5月までは、URLファーマ社買収前のコルクリス売上高を表示しています(4-3月ベースに組み替え後)。

*** 11年9月末に買収したナイコメッド社の製品であり、11年9月までは、ナイコメッド社買収前の当該品目売上高を表示しています。



IFRS

IFRS連結業績 1/2

- 概算値



7月公表の前回見通しから
変更なし

億円	13年度 上期(4-9月) 実績			13年度 見通し(今回公表)		
	日本基準	IFRS 概算値	差額	日本基準	IFRS 概算値	差額
売上高	8,283	8,283	—	16,800	16,800	—
研究開発費	1,552	1,569	+ 17	3,400	3,450	+ 50
<売上高比率>	18.7%	18.9%	+0.2pts	20.2%	20.5%	+0.3pts
営業利益	1,000	1,099	+ 99	1,400	1,600	+ 200
<売上高比率>	12.1%	13.3%	+1.2pts	8.3%	9.5%	+1.2pts
純利益	647	798	+ 151	950	1,200	+ 250
<売上高比率>	7.8%	9.6%	+1.8pts	5.7%	7.1%	+1.5pts
EBITDA **	2,115	2,185	+ 70	3,550	3,800	+ 250
Core Earnings *	—	1,824	—	—	2,950	—
<売上高比率>		22.0%			17.6%	

* Core Earnings: IFRSのGAAPベースの営業利益から、企業買収に係る会計処理の影響や無形資産の償却および減損などの一時的要因を排除した定常的なビジネスベースの利益。

** 日本基準のEBITDAは特別損益を除いて算定しています。

(注) 4-9月IFRS実績(概算値)は、日本基準とIFRS間の主要な差異項目を、日本基準における数値から組み替えることにより暫定的に作成しているものであり、2014年5月に会計監査人による監査を経て確定する最終的な実績値とは異なることがあります。

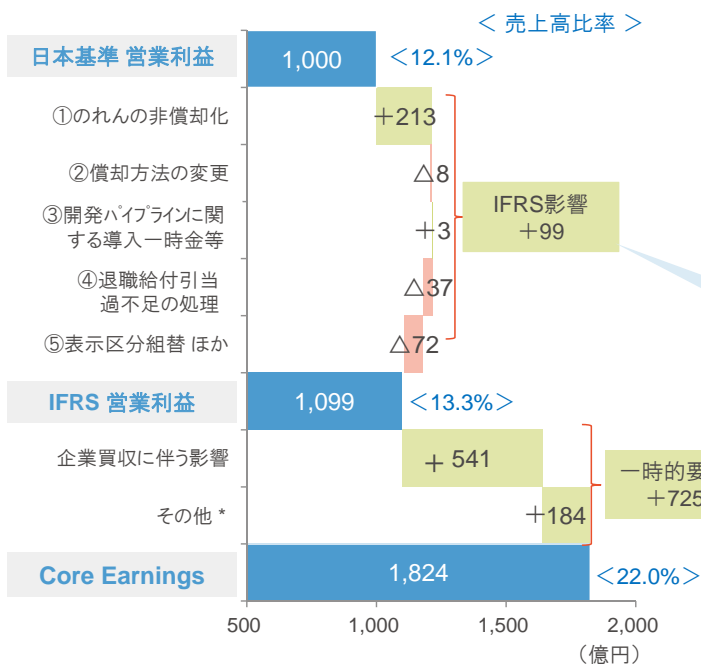
IFRS連結業績 2/2

- 日本基準営業利益からIFRSベースの営業利益、Core Earningsへの調整



IFRSベースの13年度第2四半期 営業利益、およびCore Earningsへの調整

当社の損益に影響を及ぼす主要な差異



項目	日本基準	IFRS
①のれんの償却	➢ 20年以内で償却	➢ 償却せず、毎期減損テストを実施
②有形固定資産の償却方法	➢ 海外子会社を除き主に定率法 ➢ 特定目的の研究開発用設備は取得時に一括費用処理	➢ 定額法に統一 ➢ 特定目的の研究開発用設備は資産計上し、定額償却
③開発パイプラインに関する導入一時金、マイルストーン等の処理	➢ 取引発生時に研究開発費処理	➢ 無形資産に計上し、承認取得後、上市した時点から定額償却 ➢ 開発中止の場合、将来CFが悪化した場合等に減損テストを実施
④退職給付引当過不足の処理	➢ 発生時から5年間で償却(13年度は益償却)	➢ 損益認識せず、発生時に全額その他包括利益として認識
⑤営業外損益、特別損益の表示区分組替	➢ 本業以外の損益は営業外損益として、一時的・突発的な損益は特別損益として認識	➢ 営業外は金融損益に限定 <例>支払/受取利息、有価証券売却益、受取配当等 ➢ 金融損益を除く営業外損益、特別損益の多くが営業損益に組替わる(営業利益より上の損益として認識される)

* その他の主な内容…ライセンスにかかる無形資産の償却等

(注) IFRS実績(概算値)は、日本基準とIFRS間の主要な差異項目を、日本基準における数値から組み替えることにより暫定的に作成しているものであり、2014年5月に会計監査人による監査を経て確定する最終的な実績値とは異なることがあります。



補足情報

特殊要因の内訳 [2013年度 第2四半期(7-9月)]



億円	第2四半期 (7-9月)							
	12年度	13年度					為替影響	合計
		M&A関連	ドイツOTC 事業売却	導入費	特別損益	合計		
売上高	-	-	-	-	-	-	377	377
売上総利益	△ 16	-	-	-	-	-	300	300
一般管理販売費	342	373	-	-	-	-	151	523
研究開発費	13	2	-	23	-	23	102	126
営業利益	△ 372	△ 374	-	△ 23	-	△ 23	48	△ 349
営業外損益	△ 17	△ 26	-	-	-	-	△ 16	△ 42
経常利益	△ 389	△ 401	-	△ 23	-	△ 23	32	△ 391
特別損益	77	-	-	-	139	139	-	139
投資有価証券売却益	170	-	-	-	216	216	-	216
法人税等還付加算金	-	-	-	-	-	-	-	-
事業構造再編費用	△ 93	-	-	-	△ 77	△ 77	-	△ 77
税金等調整前当期純利益	△ 312	△ 401	-	△ 23	139	116	32	△ 253
法人税等	△ 62	△ 87	-	△ 9	58	50	20	△ 17
純利益	△ 250	△ 314	-	△ 14	80	66	12	△ 236

一般管理販売費および研究開発費に含まれるM&A関連費用の内訳

億円	第2四半期 (7-9月)	
	12年度	13年度
一般管理販売費	342	373
無形固定資産償却費	260	268
のれん償却費	83	106
その他	-	△ 2
研究開発費	1	2
無形固定資産償却費	1	2



億円	上期 (4-9月)							
	12年度	13年度					為替影響	合計
		M&A関連	ドイツOTC 事業売却	導入費	特別損益	合計		
売上高	-	-	48	-	-	48	780	827
売上総利益	△ 22	△ 7	48	-	-	48	629	669
一般管理販売費	668	743	-	-	-	-	338	1,081
研究開発費	26	3	-	30	-	30	195	229
営業利益	△ 716	△ 753	48	△ 30	-	18	96	△ 640
営業外損益	△ 23	△ 52	-	-	-	-	△ 20	△ 72
経常利益	△ 739	△ 805	48	△ 30	-	18	76	△ 712
特別損益	172	-	-	-	116	116	-	116
投資有価証券売却益	170	-	-	-	216	216	-	216
法人税等還付加算金	116	-	-	-	-	-	-	-
事業構造再編費用	△ 114	-	-	-	△ 100	△ 100	-	△ 100
税金等調整前当期純利益	△ 567	△ 805	48	△ 30	116	133	76	△ 596
法人税等	△ 568	△ 175	18	△ 12	52	59	39	△ 77
純利益	1	△ 630	29	△ 18	63	74	37	△ 519

一般管理販売費および研究開発費に含まれるM&A関連費用の内訳

億円	上期 (4-9月)	
	12年度	13年度
一般管理販売費	668	743
無形固定資産償却費	507	533
のれん償却費	161	213
その他	-	△ 3
研究開発費	1	3
無形固定資産償却費	1	3

2013年度 連結業績の見通し - 詳細



7月公表の前回見通しから
変更なし

億円	13年度						対前回見通し			
	前回見通し (7月)			実績	今回見通し		上期	下期	年間	
	上期	下期	年間		上期	下期				年間
売上高	8,300	8,500	16,800	8,283	8,517	16,800	△17	+17	-	
研究開発費	1,650	1,750	3,400	1,552	1,848	3,400	△98	+98	-	
営業利益	800	600	1,400	1,000	400	1,400	+200	△200	-	
特殊要因*除き	1,550	1,400	2,950	1,753	1,197	2,950	+203	△203	-	
経常利益	750	500	1,250	967	283	1,250	+217	△217	-	
純利益	550	400	950	647	303	950	+97	△97	-	
特別損益、特殊要因*除き	1,000	950	1,950	1,214	736	1,950	+214	△214	-	
EBITDA(特別損益除き)	1,900	1,650	3,550	2,115	1,435	3,550	+215	△215	-	
EPS	70円	51円	120円	82円	38円	120円	+12円	△12円	-	
特別損益、特殊要因*除き	127円	120円	247円	154円	93円	247円	+27円	△27円	-	
為替レート	USD	99円	100円	100円	98円	100円	99円	△1円	-	△0円
	EUR	129円	130円	129円	128円	130円	129円	△0円	-	△0円

* 特殊要因

: M&Aに関連する下記の費用

i) 営業利益: 棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化、無形固定資産償却費、のれん償却費等

ii) 純利益およびEPS: i)に加え、営業外費用

参考: 為替レート 1円変動影響	13年度(億円)	
	USD	EUR
売上高	38	42
営業利益	△7	2
純利益	△4	1



Project Summit

コーポレート・オフィサー
チーフ フィナンシャル オフィサー
フランソワ ロジェ

2013年 10月 31日

武田薬品工業株式会社

Project Summit



Project Summit

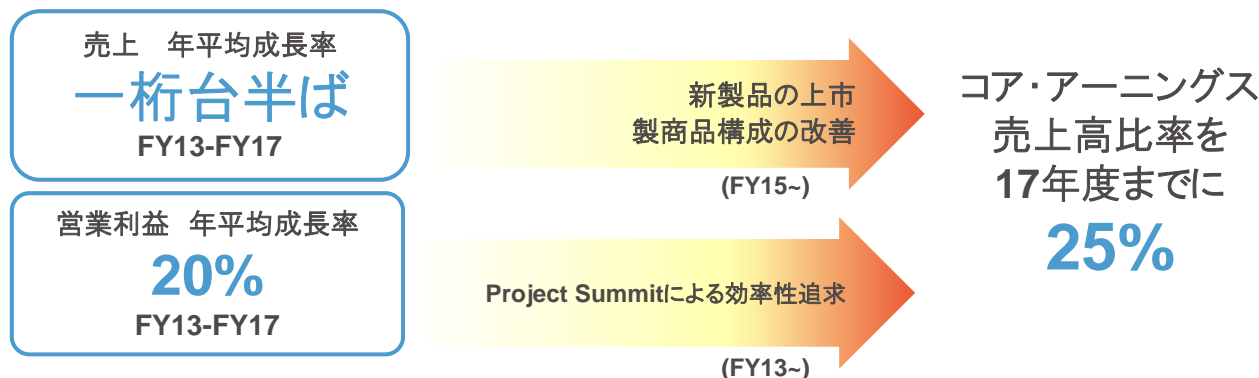
- 売上と利益の成長を推進する、あらゆるオペレーションの有効性と効率性を追求した全社戦略
- 持続的な成長と株主価値の向上を確実にする強力なパイプラインなどへの投資能力を強化
- より良い、より効率的な運営体制によるビジネスモデルの強化
- ビジネスのあらゆる側面においてグローバル競争力を強化

タケダの将来 Project Summit と中期成長戦略



- 相乗効果の期待できる大規模なM&Aを成功させ、タケダは業界で最も強力なパイプラインを有する企業に成長
- Project Summitは、先進的なグローバル・オペレーティング・モデルとビジネス・プロセスを通じて、タケダの利益率を改善し、成長への投資を加速させ、タケダの将来へ貢献

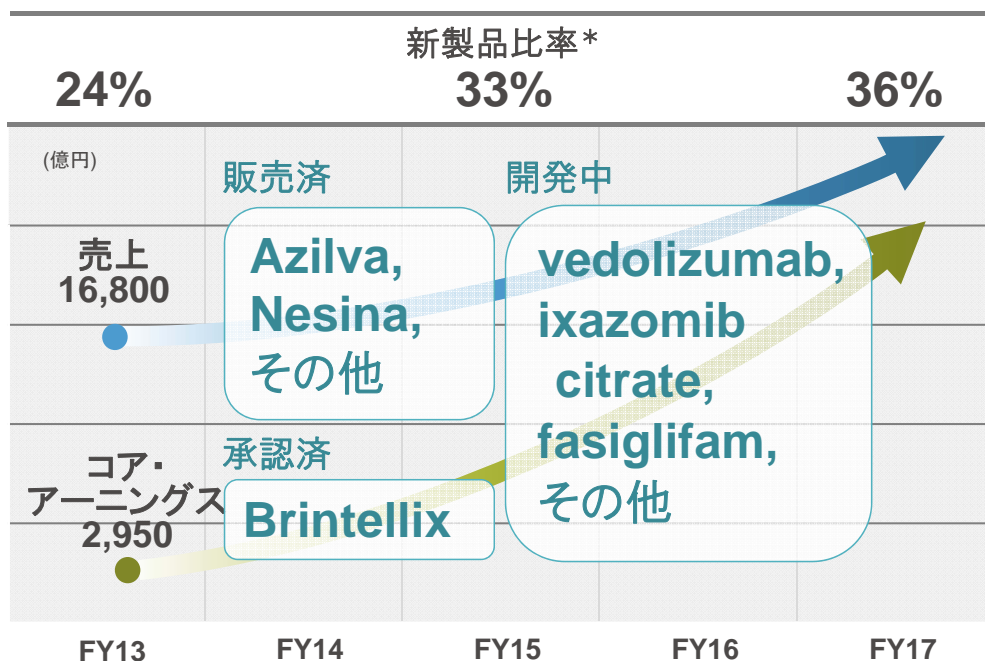
中期成長戦略



Project Summit と 中期成長戦略



持続的な成長を実現



* 日米欧市場における比率。新製品は発売後5年以内の製品



効率性を達成



Project Summitの効果を除いた当初の会社計画からの削減額であり、中期成長戦略に織り込まれている。

取り組みと目標



**SALES AND
MARKETING**

**PRODUCTION &
SUPPLY CHAIN**

**RESEARCH &
DEVELOPMENT**

**GENERAL &
ADMINISTRATIVE**

取り組み:

- ▶ 多地域で販売する国際的な主要製品について、単一プラットフォームのもと、グローバルブランド戦略を改善し、グローバルマーケティング組織を効率化
- ▶ 製品上市の効果を最大化し、顧客対応を強化する等、適切な能力を構築
- ▶ 広告代理店など、グローバルで活用するエージェンツ数を削減
- ▶ サプライヤーマネジメントを改善し、効率性を獲得するため、グローバル購買を活用

目標:



Project Summitの効果を除いた当初の会社計画からの削減額であり、中期成長戦略に織り込まれている。

取り組みと目標



SALES AND
MARKETING

PRODUCTION &
SUPPLY CHAIN

RESEARCH &
DEVELOPMENT

GENERAL &
ADMINISTRATIVE

取り組み:

- ▶ 製造拠点のネットワークを最適化し、グローバルにおける製造拠点と品質管理組織の連携を強化
- ▶ 製造能力を最適化し単価を低減するため、Operational Excellence Programを遂行することにより、製造拠点のパフォーマンスを改善
- ▶ 包装、原材料、および外部委託について集中購買を活用
- ▶ 統合されたグローバルサプライチェーンの組織を設置

目標:

経費削減(年間)

FY15

>50
億円

FY17

>100
億円

Project Summitの効果を除いた当初の会社計画からの削減額であり、中期成長戦略に織り込まれている。

取り組みと目標



SALES AND
MARKETING

PRODUCTION &
SUPPLY CHAIN

RESEARCH &
DEVELOPMENT

GENERAL &
ADMINISTRATIVE

取り組み:

- ▶ グローバルR&D組織の設置
 - Millennium社のR&D活動をタケダへ統合
 - 武田バイオ開発センターの事業をタケダに事業譲渡
 - 欧州R&D活動の統合計画を最終化、ロスキレのR&Dを閉鎖し、チューリッヒを拠点とするR&D部門を移管
- ▶ R&Dプラットフォーム機能のグローバルな統合(Pharmacovigilance、Regulatory Affairs、オペレーション、QA他)
- ▶ サプライヤー・マネジメントと効率性を改善するため、グローバル購買を活用
- ▶ 効率性を追求し、R&D費用は年間約3000億円レベルを維持(FY13~FY17)

目標:

経費削減(年間)

FY15

>250
億円

FY17

>300
億円

Project Summitの効果を除いた当初の会社計画からの削減額であり、中期成長戦略に織り込まれている。



SALES AND
MARKETING

PRODUCTION &
SUPPLY CHAIN

RESEARCH &
DEVELOPMENT

GENERAL &
ADMINISTRATIVE

取り組み:

- 財務、人事、IT、購買等の主要機能についてグローバル化を推進し、競争力を強化
- 特定の管理機能について、低コストのシェアード・サービスセンターを利用
- グローバル財務のプロセスとシステムの調和と連携強化
- ITのプラットフォーム、リソース、支出をMillennium社を含むタケダ・グローバルで統合
- サプライヤー・マネジメントと効率性の獲得のためグローバルな購買を活用

目標:

経費削減(年間)

FY15

>120
億円

FY17

>150
億円

Project Summitの効果を除いた当初の会社計画からの削減額であり、中期成長戦略に織り込まれている。

目標に向かい順調に推移



Project Summit全体像:

- 当社全体、および全世界での多岐にわたる取り組みにより、実効性を担保
- 一部の取り組みでは、政府や組合等、第三者組織との相談が必要
- 2017年度までに、一桁台前半の%で、グローバル従業員数の削減を見込む
- 全社的購買の取り組みが費用削減のカギ
- implementation cost: 5年間で800~900億円
- 13-17年度の期間において、改善効果は後半により多く発現
- グローバルな効率性、有効性を強化するため、グローバルな役割を果たすChief Information Officer や購買責任者等の採用
- 経費削減、implementation cost、従業員数の最新情報のアップデートは第2四半期と第4四半期で行う

連結全社目標:

経費削減(年間)

FY15

>800
億円

FY17

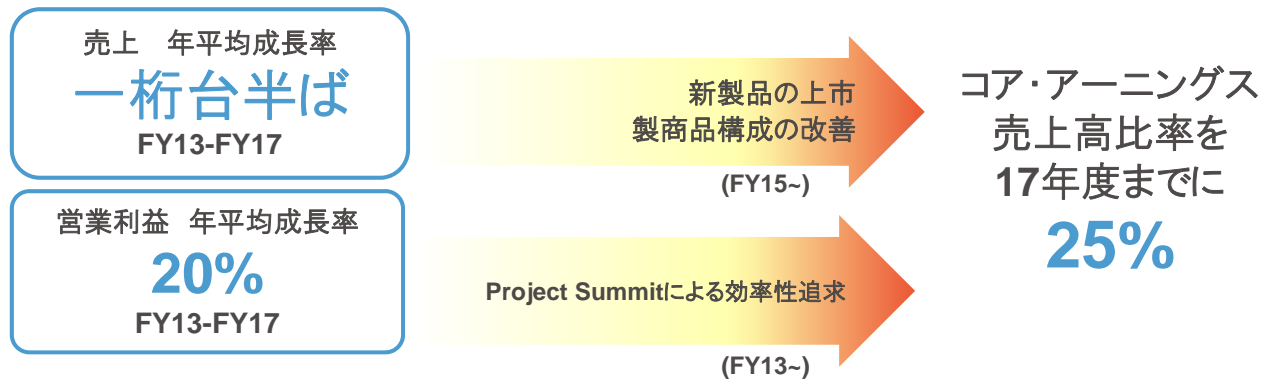
>1000
億円

Project Summitの効果を除いた当初の会社計画からの削減額であり、中期成長戦略に織り込まれている。



- 相乗効果の期待できる大規模なM&Aを成功させ、タケダは業界で最も強力なパイプラインを有する企業に成長
- Project Summitは、先進的なグローバル・オペレーティング・モデルとビジネス・プロセスを通じて、タケダの利益率を改善し、成長への投資を加速させ、タケダの将来へ貢献

中期成長戦略



Better Health, Brighter Future



- タケダの後期開発パイプラインは、豊富かつ革新的。また、短中期的な特許満了の影響は限定的
- Project Summitにより、タケダは、医薬品業界において、強力なグローバルリーダーとしてのポジションを確保できるビジネスモデルへと変革
- 中期成長戦略の実現に向け、当社のあらゆる分野を、より効果的、より効率的にし、収益性、競争力を高めるため、大胆で革新的な措置を継続的に実施
- 最終的に、Project Summitは、当社のミッション「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」を支える



2013年度第2四半期研究開発アップデート

取締役/チーフ メディカル&サイエンティフィック オフィサー
山田 忠孝

2013年10月31日

武田薬品工業株式会社

中期成長戦略における取り組み





研究開発生産性の向上

Quality of Thought

Operational Excellence

研究開発活動の最適化

研究開発期間の短縮

- ✓候補化合物の選択までの期間
- ✓IND提出までの期間
- ✓POC&C取得までの期間

研究開発費の削減

- ✓各候補化合物の研究開発費を40%削減

最適な研究開発基盤の確立

- ✓ミレニアム社研究開発機能の統合
- ✓Global Target Marketplace
- ✓欧州研究開発活動の統合

直近のパイプライン・ステージアップ (2013年7月31日以降)



			Ph-1	Ph-2	Ph-3	申請	承認
BRINTELLIX® (vortioxetine)	大うつ病	米				→	
オプリーン® (セチリスタット)	2型糖尿病および脂質異常症を合併した肥満症	日				→	
VIPIDIA™ (アログリプチン)	糖尿病	欧				→	
VIPDOMET™ (アログリプチン/メトホルミン)	糖尿病(メトホルミンとの合剤)	欧				→	
INCRESYNC™ (アログリプチン/ピオグリタゾン)	糖尿病(ピオグリタゾンとの合剤)	欧				→	
TAK-390MR (dexlansoprazole)	逆流性食道炎の治療およびその維持療法、非びらん性胃食道逆流症	欧*				→	
TAK-816	インフルエンザ菌b型(Hib)による感染症の予防	日			→		
AMITIZA® (lubiprostone)	液剤	米			●		
AD-4833/TOMM40	アルツハイマー病に起因する認知機能障害の発症遅延	米/欧	→				
TAK-137	精神疾患、神経疾患	-	→				

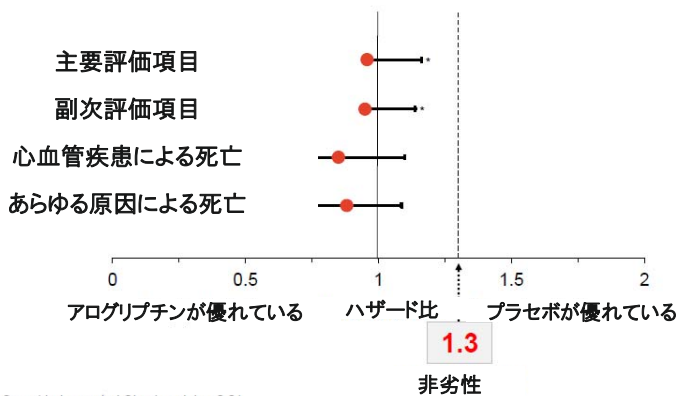
*Dexlansoprazoleは分散承認方式により、欧州16カ国において承認

ネシーナ® / VIPIDIA™ (アログリプチン)

EXAMINE試験により良好な心血管安全性プロファイルを実証



EXAMINE試験における主な知見



* One-sided repeated CI using alpha=0.01.

- すべての評価項目について、プラセボと比較し、非劣性を示す
- HbA1c レベルは、標準治療にアログリプチンを併用した場合、プラセボを併用した場合と比較し有意に低い
- 低血糖の発現、膵癌を含む悪性腫瘍、腎機能について、アログリプチンとプラセボ投与群で差はない
- 急性あるいは慢性膵炎の発現は、アログリプチン投与群、プラセボ投与群ともに低く、頻度も同程度
- 死亡が減少する傾向
- 心不全による入院は増加しなかった

主要評価項目: 心血管イベントによる死亡、非致死性心筋梗塞、非致死性脳卒中
副次評価項目: 主要評価項目のイベントに入院後24時間以内に冠血管再開通術を要した不安定狭心症を加えたイベントの発生率



Brintellix® (vortioxetine)

米国にて大うつ病の効能で承認取得

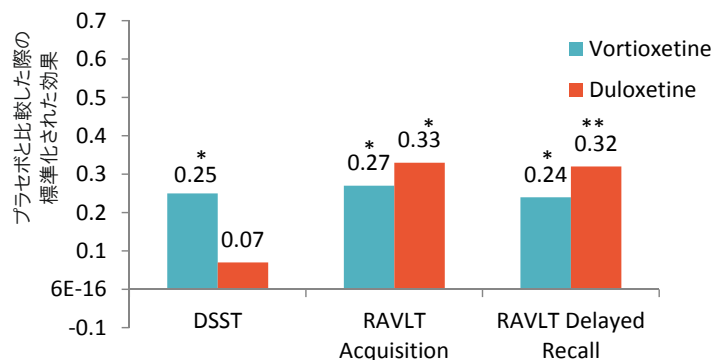


プログラム概要

- デンマーク ルンドベック社より導入した新規の多重作用メカニズム型抗うつ剤
- 2013年9月30日に米国において、大うつ病の効能で承認取得
- 6本の短期投与試験と1本の長期投与試験を含むグローバル開発プログラムにて、有効性、安全性を実証
- Brintellix投与群の患者における、治療に起因する性機能障害の発現率は、女性で34%以下、男性で29%以下 (ASEXスケール)
- 認知障害の改善作用を示唆

Ph-3試験データ

高齢者の急性大うつ病患者を対象とした試験



*p<0.05; **p<0.01対プラセボ

DSST: 数字符号置換検査

RAVLT: 言語性記憶検査



MLN0002 (vedolizumab)

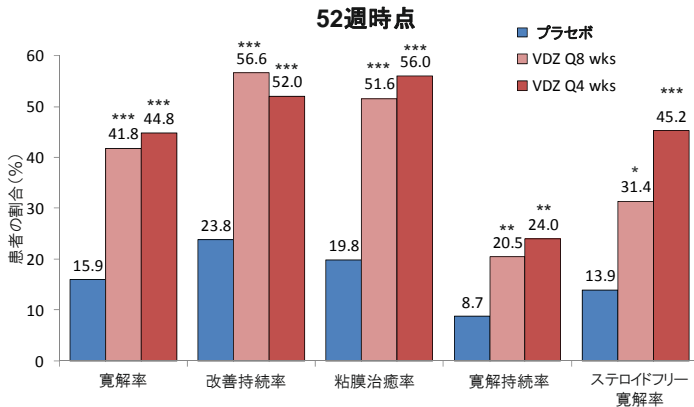
FDAより潰瘍性大腸炎の効能につき、優先審査指定



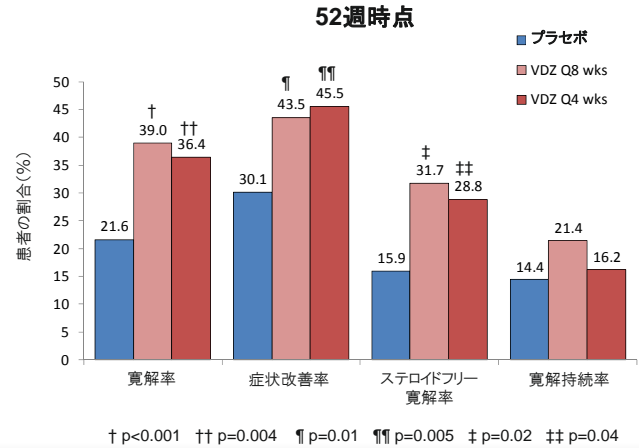
プログラム概要

- 潰瘍性大腸炎やクローン病に関与する白血球上に発現する $\alpha 4 \beta 7$ インテグリンに結合、消化管へ特異的に働く新規のヒト化モノクローナル抗体
- 欧州申請: 2013年3月、米国申請: 2013年6月
- FDAより潰瘍性大腸炎の効能につき優先審査指定、審査終了目標日は 2014年2月18日
- 抗TNF α 阻害剤での治療を行う前や、抗TNF α 阻害剤での治療が失敗した患者に対しても有効性示す
- 2本のPh-3試験データが *New England Journal of Medicine* に掲載 (2013年8月22日号)

GEMINI I : 潰瘍性大腸炎



GEMINI II : クローン病



Contrave® (bupropion SR / naltrexone SR)

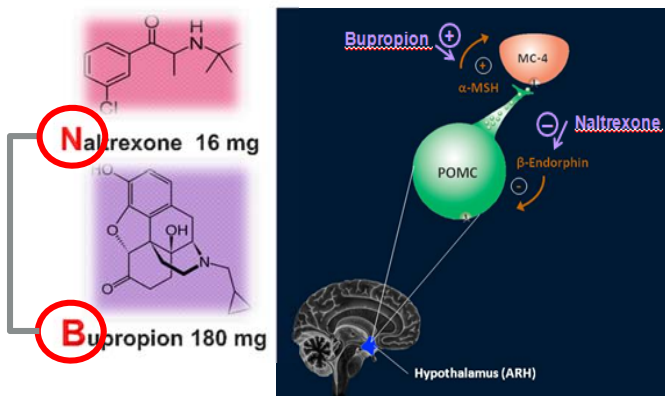
2013年中に米国での再申請予定



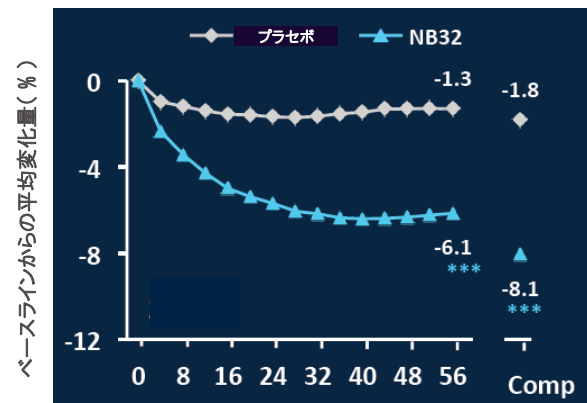
プログラム概要

- ナルトレキソン塩酸塩徐放製剤とブプロピオン塩酸塩徐放製剤の合剤
- FDAからの要件を満たすため、心血管への安全性を検証するLIGHT STUDYを実施中
- LIGHT STUDYの中間解析が12月初旬に得られる予定、その後2013年末までに追加データをFDAへ提出予定 (FDAによる審査は6ヶ月間を予定)
- 心血管安全性アウトカム(MACE)データを有する最初の抗肥満薬となる予定

作用機序



Ph-3試験データ

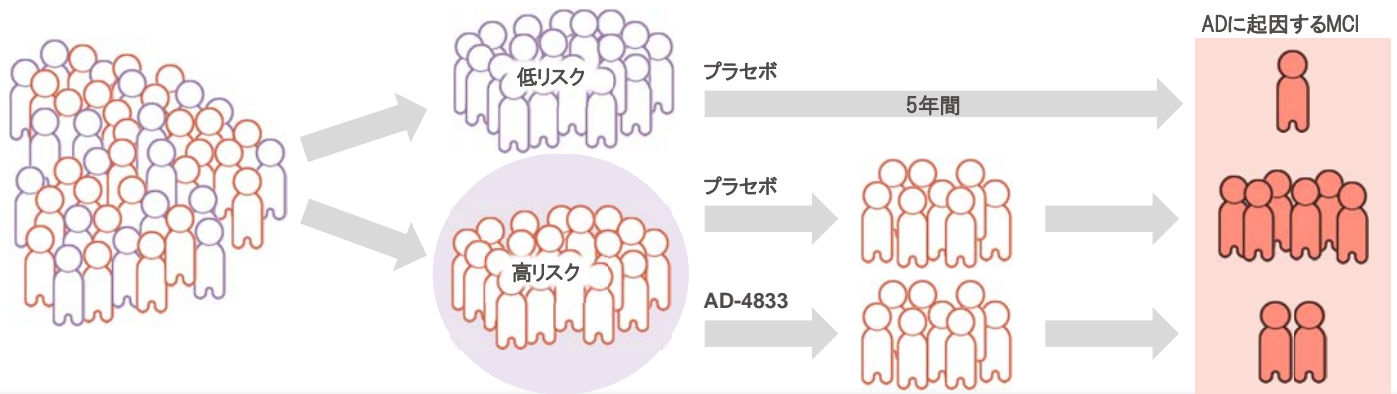




AD-4833/TOMM40

- 認知機能が正常な人における、軽度認知機能障害(MCI)やアルツハイマー病(AD)の発症を遅延させることによる、アルツハイマー病の治療パラダイムを大きく変える可能性のある臨床試験
- TOMM40遺伝子型、アポリポタンパク質E遺伝子型、および年齢で構成されるリスク評価手法を使用し、認知機能が正常な人口の97%において、ADに起因するMCIを発症するリスクの高い人を特定できる可能性
- 低用量AD-4833(ピオグリタゾン)をADに起因するMCIの発症を遅延させる安全かつ新たな治療法として検証
- 試験の目的: (1) 発症リスクを予見するバイオマーカーを用いた評価手法を検証
(2) 低用量AD-4833によるADに起因するMCIの発症遅延効果を評価

TOMMORROW 試験の概要



TAK-875 (fasiglifam)

期待の開発後期パイプライン



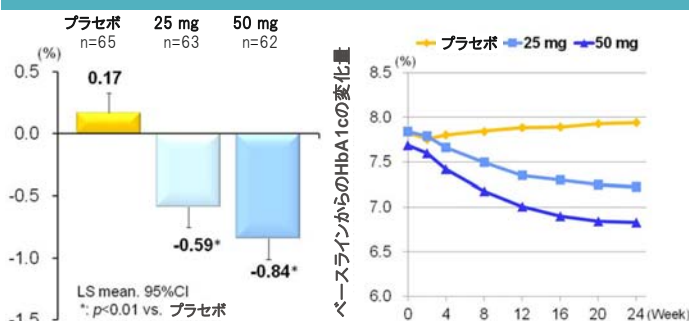
プログラム概要

- 2型糖尿病治療におけるGPR40作動薬
- 良好な血糖低下作用と低血糖リスクを減少 (Ph-2試験における低血糖の発現率: TAK-875:2.0%、グリメピリド:19%)
- 忍容性が高く、腎機能障害の患者における投与用量調整の必要なし
- 承認見込み時期: 2015年度(日本)
2016年度(米国/欧州)

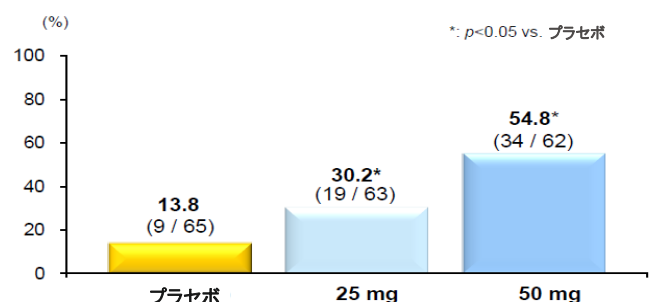
Ph-3試験データ(日本人でのCCT-003試験)

- プラセボ投与群と比べ、24週時のHbA1c変化量は統計学的に有意に低下
- プラセボ投与群と比べ、目標のHbA1c値(6.9%未満)まで低下した患者の割合は統計学的に有意に高かった
- 両実薬投与群における低血糖発現率はプラセボ投与群と同程度であり、体重増加作用は認められなかった

24週時におけるベースラインからのHbA1c変化量



24週時にHbA1c目標値(<6.9%)に達した患者の割合



MLN9708 (ixazomib citrate)

期待の開発後期パイプライン

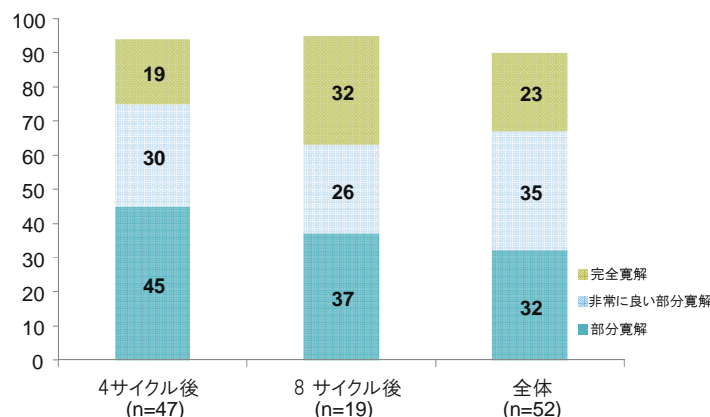


プログラム概要

- Ph-3試験を実施中の初の経口プロテアソーム阻害剤
- 多発性骨髄腫に対して、すべて経口剤の組み合わせによる治療レジメンにて開発中
- 週1回投与製剤
- 未治療および再発・難治性の多発性骨髄腫、また再発・難治性のALアミロイドーシスを対象とした臨床試験を実施中
- 幅広い血液癌や固形癌への適応可能性
- タケダはグローバルでの販売権利を所有
- 承認見込み時期: 2015年度(米国/欧州/日本)

多発性骨髄腫(フロントライン適応)Ph-1/2試験

MLN9708+レナリドマイド+デキサメタゾン併用による奏功例のまとめ(中間報告)



- 12サイクル後の評価可能な3例のうち、2例が完全寛解、1例が非常に良い部分寛解を達成

開発初期から中期にある期待のパイプライン



MLN8237: alisertib (再発・難治性の末梢性T細胞リンパ腫、等)
Ph-3 (米、欧)、Ph-1 (日)

- 選択性の非常に高いファーストインクラスの経口オーロラAキナーゼ阻害薬
- 前臨床試験において、固形癌および血液癌に高い活性を示す

DENVax (デング熱の予防)

Ph-2

- デング熱の原因となる4つのウイルス型全てを含む4価の弱毒化生ワクチン

MT203: nalmumab (関節リウマチ)

Ph-1

- 顆粒球マクロファージコロニー刺激因子(GM-CSF)を中和する完全ヒト型モノクローナル抗体
- 関節リウマチを対象としたPh-1を実施中

ノロウイルスワクチン

Ph-1/2

- ファーストインクラスのノロウイルスワクチン
- 2013年米国感染症学会週間にて、Ph-1/2試験データを発表

TAK-137 (精神疾患・神経疾患)

Ph-1

- AMPA受容体ポテンシエーター。優れた有効性、安全性、忍容性から、様々な疾患に対するファーストインクラスの治療薬となる可能性
- 健常成人を対象にPh-1を実施中

MLN0264 (進行性消化器癌)

Ph-1

- グアニル酸シクラーゼ(GCC)と選択的に結合する抗体薬物複合体
- GCCが発現している進行性消化器癌の患者を対象にPh-1を実施中

ノロウイルスワクチン 米国感染症学会週間でデータを発表



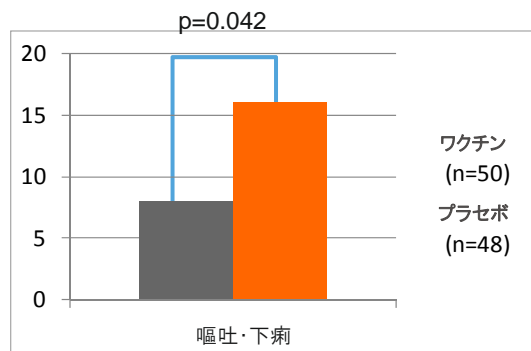
2013年米国感染症学会週間において発表されたPh-1/2試験データ

- ノロウイルスによる感染症状の発現および重症化の予防に好影響を与えることを示唆
- 排泄物中のノロウイルス量減少を示唆する傾向が見られた
- 将来の大規模臨床試験において、ノロウイルスによる疾患であること、およびその感染を確認するために必要な臨床検査の最適化に向けて重要な知見が得られた

軽度・中等度・重度の急性胃腸炎症状の発症数

プラセボ群と比較し、ノロウイルスワクチン接種群では、軽度・中等度・重度いずれかの嘔吐・下痢の発症数が52%減少

軽度・中等度・重度
のいずれかの症状
が発症した患者数



地域別パイプライン承認年度見通し



	FY13	FY14	FY15	FY16 - FY17
日	azilsartan (TAK-536) CCB ¹ lansoprazole (AG-1749) LDA ² cetilistat (ATL-962) influenza vaccine (BLB-750) brentuximab vedotin (SGN-35)	trelagliptin (SYR-472) vonoprazan (TAK-438) vortioxetine (Lu AA21004) Hib vaccine (TAK-816)	fasiglifam (TAK-875) ixazomib (MLN9708) orteronel (TAK-700) ⁵ leuprorelin 6M (TAP-144-SR)	relugolix (TAK-385) motesanib
米	vortioxetine (Lu AA21004) vedolizumab (MLN0002)	orteronel (TAK-700) ⁵	ixazomib (MLN9708) alisertib (MLN8237)	fasiglifam (TAK-875) ramelteon (TAK-375) SL
欧	alogliptin (SYR-322) alogliptin MET ³ alogliptin PIO ⁴ dextansoprazole (TAK-390MR) lurasidone	vedolizumab (MLN0002)	ixazomib (MLN9708) orteronel (TAK-700) ⁵	fasiglifam (TAK-875) alisertib (MLN8237)

新興国および北アジアにおいては以下のパイプラインについて、順次上市を予定
alogliptin、azilsartan medoxomil、brentuximab vedotin、MEPACT、ramelteon、dextansoprazole、DAXAS

既に承認された品目は赤字で掲載

¹カルシウム拮抗剤、²低用量アスピリン、³外ホルミン、⁴ピオグリタゾン(アクトス)、⁵タイムラインは現在検討中

*Amgen社の品目も含めて、導入品のいくつかは、各会社の開示ポリシーにより非開示

自社品

導入品

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の需要が得られない場合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。



武田薬品工業株式会社